
一途

三木拓矢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一途

【Nコード】

N6559I

【作者名】

三木拓矢

【あらすじ】

少年は過去の自分を悔やんでいた。

しかし、それも今となっては取り戻す事の出来ないもの

忘れたくとも忘れられない 大切な思い出だから

少年は過去にしがみついていた

現在（前書き）

現在

君と別れてから今年で6年

君の事を1日も忘れた日はなかった

一途っていうよりしつこいよね

でもね、忘れようと思ったよ

君ばかり見ていたってなんの解決にもならないって

決して君には追いつくことは出来ないって

それなのに、悲しいよ

君を考えると胸が痛いよ

切ないよ。

なんで 君と別れちゃったんだろう

未来

あの日から6回、秋が過ぎた僕の誕生日

決して君と交えることの出来ないと思ってた

だけどその日 奇跡がおきたんだ

僕はメールという君とのつながりを得た

幸せだった。

僕の短い年月を人生というのなら、僕の人生はこの日のためにあるんだなって思った

それくらい幸せだった。

もう、なにもいらなくらいに。

つらかった君の思い出は6年ぶりに幸せな思い出に上書きされた

……だけど、君とメールのやりとりをして、僕達は、もう昔みたいな関係に戻ることはないんだと 知った。

過去

「付き合ってください」

そう言われて、僕達の関係ははじまった

その頃、僕はまだ小学生で

三年間、君と同じクラスにいて

それなのに、君に告白されるまで僕は君の事を知らなかった

君と話したのが その日が初めてだもの

君がなんで僕に告白してきたのか

僕みたいな酷い男に

今となっては確かめられない 永遠の謎

過去2

君からのいきなりの告白

その頃の僕には好きな人がいたのに、

君になんとかなく悪い気がして 付き合い始めた

そんな適当な関係

僕に君に対する愛の気持ちはない

冷たい関係

それなのに、君はいつも真っ直ぐに気持ちをぶつけてくれた

あの頃の僕は、君を裏切って、

君に偽り続けてきた

未来2

君の事を思いながら、もうどれくらいの時間が経過したのだろう。

君の事を忘れられないせいなのか、はたまた自分の性格なのか…

他の女子と話たり 2人で遊んだりしても 男友達という感じがする。

多分それは その女子友達に失礼なことじゃないだろうか…

わかってはいるのにやはりどうしても分からない。

ああ、やはり僕はどうしようもない人間なんだろうか。

誰にも愛されては、愛してはいけないのだろうか。

辛くはない。

だがかと言って楽なわけでもない。

ただ ただ 自分に罪の意識を重ねていきたくだけだ。

苦しくはない。

もう、慣れてしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6559i/>

一途

2010年10月20日18時49分発行